

科目名称 (Course Title)				担当教員(Instructor)	
交流居住論				塩見 直紀	
開講学期 (Semester)	単位数 (Credits)	履修年次 (Requirement)	授業形態 (Class Type)	受講定員の有無 (Maximum Enrollment)	授業公開 (Workshop Class)
後学期	2 単位	3 年次	講義	無	科目等履修 ・ 聴講
授業の概要 (Course Description)					
日本の農山漁村の置かれている現状を踏まえ、都市農村交流や移住定住がもつ農村地域再生の可能性と現代的意義について学ぶ。具体的な国内の事例（都道府県、市町村、企業、NPO等）を中心に、先進的な取り組みについて研究し、事業を企画する理論と手法を身につける。					
授業の到達目標 (Course Objectives)					
<ul style="list-style-type: none"> ・都市農村交流や移住の取り組みなどの現状と課題について基本的な知識を修得する。 ・交流や定住促進を通じた地域振興策の概要を身につける。 ・地域資源（地域資源創出）を活かした交流事業や定住促進の独自の企画を立案できる。 					
teijyu					
第 1 回	交流居住論の概要と目指す方向性について（オリエンテーション）				
第 2 回	交流、定住をサポートする若手ベンチャーの先進的取り組みに学ぶ(1)				
第 3 回	交流、定住をサポートする若手ベンチャーの先進的取り組みに学ぶ(2)				
第 4 回	交流、定住をサポートする若手ベンチャーの先進的取り組みに学ぶ(3)				
第 5 回	日本の農村の現状と課題について				
第 6 回	日本における旅の歴史（人はなぜ旅をするのか）				
第 7 回	交流とは何か、交流の可能性とは				
第 8 回	交流、定住促進等による地域再生に関するワークショップ（個別プレゼン準備）				
第 9 回	現代の若者のローカル志向について				
第 10 回	空き家対策について				
第 11 回	地域資源を活かしたローカルビジネスの創造について				
第 12 回	選ばれる農村とは				
第 13 回	地域資源調査とブランディングと情報発信について				
第 14 回	クリエイティブ人材の創造性発揮空間としての農村の可能性				
第 15 回	交流、定住促進等による地域再生に関するプロジェクト 個別プレゼンテーション				
授業時間外学習 (Supplementary Activities)					
<ul style="list-style-type: none"> ・観光、交流、移住、定住に関する情報や地域のあり方について、日ごろから問題意識をもつこと。 ・新しい事業や世にない仕組みを自分が創出するという気概をもち、関連書を手にするなど、自己学習をおこなうこと。 					

成績評価の方法と基準(Grading)	
評価方法 (割合)	評価基準
期末試験 (60%) 毎回の感想・気づき・提案シート (20%) 個別最終プレゼン (20%)	秀：必要なキーワードを過不足なく用いて、論理的に客観的な説明ができ、かつ、課題や独自の解決策を的確に指摘できている 優：キーワードを用いながら論理的に客観的な説明ができ、課題を理解し、解決策を提示できる 良：おおよその説明はできており、かつ、課題を理解している 可：課題の説明において、最低限の水準を満たしている 不可：課題が説明できていない
テキスト (Textbook)	【書名】 【著者】 【出版社】 【出版年】
参考書・資料等 (Supplementary Reading)	毎講義のレジюмеの中で、適宜、参考文献を紹介する
備考 (Other Information)	3分の1以上 (6回以上) の欠席は、単位不可とする。※1回目の授業も5回の欠席に含むので注意
教員との連絡方法 (Contact With Instructor)	メール (conceptforx@gmail.com) で連絡